学校だより　　学校スローガン「殻を破れ！一歩前へ」

# 西有家中　No７

令和４年　８月９日
南島原市立西有家中学校
校長　本多　洋二

## 原爆祈念日！

今日は、７７回目の原爆祈念日です。世界で唯一原子爆弾を落とされた国が日本。原爆によって多くの人々が亡くなられ、今でも後遺症で苦しんでいる方がいらっしゃいます。７７年前に起きたことを風化させてはなりません。そういう意味で、今日の登校日は大切な日です。平和について考え、平和な世の中にするために私たちに何ができるのかしっかり考えなければなりません。

今日は次のことに取り組みました。

各学年において、平和についての調べ学習をした内容を発表しました。次に「いわたくんちのおばあちゃん」の朗読劇をし、１１時０２分に黙祷した後、西有家中学校平和宣言が提唱されました。平和学習実行委員を中心に生徒たちはよく頑張っていました。

## 学校閉庁日におけるお願い

８月１０日～８月１５日の平日において、学校は閉庁しますので、連絡については、**南島原市教育委員会（0957-73-6702）**までお願いします。

## 夏休み中の生徒たちの活躍！

早いもので、夏休みも半分終わりました。今日の全校登校日に元気な顔を見ることができ、大変うれしく思いました。夏休み中、県中総体や吹奏楽コンクール等で生徒たちの頑張る姿がありました。

県中総体の結果は以下のとおりです。

### 県中総体試合結果（団体戦のみ）

軟式野球　１回戦　惜敗（１対２）土井首中
バスケ女子３回戦　敗退（３８対５６）純心中
バレー女子３回戦　敗退（０対２）国見中
サッカー　１回戦　惜敗（０対１）鳴北中

## 「平和を考える」

８月９日は全校登校日、７７回目の原爆祈念日でした。西有家中学校では平和集会を行いました。

生徒の皆は、真剣に参加していました。

あるテレビ番組で被爆された下川さんが「平和とは、人の心の痛みが分かること」と言われていました。戦争は、相手の心の痛みなど考えては、できません。人の心の痛みがわかれば、人を傷つけたりできません。まして、人を殺したりできるはずがありません。

**「平和とは人の心の痛みがわかること」**
**平和の反対は、「無関心」**とも言われます。身近な所からこの平和について考えてほしいと思います。自分のそばにいる人に関心をもち、その人がどんな気持ちでいるのかを考えることができていますか。

平和を考える時、身近な平和から実現させていく、身近な平和が広がり、世界の平和につながっていくと考えます。身近な平和について考えるためには、自分の周りの人がどんな思いでいるのか、どんな気持ちでいるのかを感じることが大切だと思います。

強豪相手にベスト４をかけて戦う西中バレー部女子生徒と西中バスケット部女子生徒。

＜吹奏楽コンクール＞

７月３０日（土）に諫早文化会館にて長崎県吹奏楽コンクール県央地区大会が行われ、西有家中からも出場しました。結果は、南島原市の中で唯一の銀賞でした。極度の緊張の中でしたが、生徒たちは一生懸命に演奏していました。演奏が終わって、会場の外に出てきた生徒たちは、「緊張した～」と笑顔で言っていたのが印象的でした。よく頑張りました。

## ブレークコーナー

自分の考えや人の受け売りです。
気軽にお読みください。

### 啐啄同時（そったくどうじ）

「啐啄同時」この言葉を御存知でしょうか。もともとは、仏教用語で、禅の教えによくつかわれる言葉だそうです。

**啐：鳥のひなが、卵から生まれ出ようとする時、卵の殻をつついて音を立てること。**

**啄：親鳥が外から卵の殻をついばんで破ること。**

**「啐啄同時」**

**この２つのことが同時に行われ、はじめて殻が破れひなが生まれること。**

**（右上へ続く）**

この言葉、卵の中のひなと親鳥の関係を表しており、両方が一致してひなが生まれる。「機を得て、両者相応じる得難い好機」という意味だそうです。また、この言葉は、師弟関係や親子関係の在り方についても教えている言葉だと言われています。

師弟関係では、弟子の修行が円熟したことに気づいて師匠が悟りの機会を与える。この場合、弟子も師匠の意思に応じる境地に立っていなければなりません。つまり、双方が意思相合することが大切なのです。

親子関係での「啐啄同時」とはどんな時でしょうか。親の指導と子どもの意識が一致した時、その指導の成果はあがります。今、指導する時期ではなく、もう少し待てば自然と身に付くこともあれば、今指導しないといけないのに、機を逃してしまい、身に付くことができない場合もあります。

双方が一致した時に、その指導の成果は高まります。具体的な例として、こんなことがありました。

『親と子どもが二人で歩いています。子どもが、ある家の庭を見て、「お花がとってもきれいだよ」と言いました。するとその親はスマホの画面を見ながら、「よそ見しないで前を見て歩きなさい。急いで帰るよ。」でした。』

ここで、「ほんとだね。きれいだね。きれいな花に気づいた〇〇もすごいね。家でも花を植えてみようか。」と言葉かけをすれば、子どもは、さらに美しいものを美しいと感じる心を育てるのではないでしょうか。